



ビハーラ山陰

第6号【令和元年7月1日】

発行元
事務局

浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

ともに生きるビハーラ



ビハーラ山陰
会長 三谷卓良

昨年10月に、ビハーラ第4連区研修会を担当教区として開催したところ、150名を超える多くのご参加をいただき、妙好人善太郎の地浜田にお集まりいただきました。この研修会の開催地をお引き受けいただきました、ビハーラ浜田の皆さん、浜田組寺院の皆さんの献身的なご支援ご協力のおかげと、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

また、昨年は4月の島根県西部地震、6月の大阪府北部地震、7月の西日本豪雨災害、9月の北海道胆振東部地震に被災された皆さんに、心からお見舞いを申し上げます。このような災害に対して、ビハーラ活動に携わるものとして、それぞれができることをできるときに、お手伝いをさせていただいたことと思います。

ビハーラ活動は、人びとの悲しみ、苦しみ、辛さ、苦難、苦悩に寄り添いたいとの願いをもって、老病死を見つめる真宗念仏者の社会実践活動だと思えます。傾聴活動を通して、わが身のありようを問い直し、人として心が育てられ、成長させていただく活動だと思えます。

そして、一人であっても一人にしない、家庭で、地域で、施設で、病院で、真宗念仏者の社会実践活動として、人々の苦悩に寄り添いたいとの願いをもって、ふれあっていく、ともに生きるビハーラ活動を、皆さんとともにさせていただきたいと思えます。

さらに、真宗念仏者の社会実践活動の輪を広げ、仲間づくりのために、①新規会員とビハーラ活動者養成研修会修了者の加入促進 ②寺院や組での組織化と活動推進 ③医療機関との連携推進を、皆さんのお力添えをいただきながら、取り組みたいと思えます。

一人ひとりの悲しみ、苦しみ等に対する「気づき」と「ともに生きる」という仏教理念に基づいたビハーラ文化の「築き」が、新たなビハーラ活動構築の条件となるものと思えます。

学びながら実践し、実践しながら学び、自他ともに心豊かに生きる社会を目指して、ともに歩むビハーラ活動を進めてまいりましょう。

第10回
ビハーラ第4連区研修会





第10回 ビハーラ第4連区研修会

とき 2018(平成30)年10月11日(木)・12日(金)

ところ 島根浜田ワシントンホテルプラザ

講師 田畑 正久先生(龍谷大学大学院教授・医学博士)

〈テーマ〉生・老・病・死を見つめ、
ともに生きるビハーラ活動

〈講題〉医療現場で求められる仏教

参加者 152名

※2日目は「妙好人めぐり～有福の善太郎さんを訪ねて～」



第10回ビハーラ第4連区 研修会に参加して

鳥取因幡組 光輪寺 松田 洋子

私は、現在は浜田市に住んでいる若家族(特に3人の孫娘)に会えるのが楽しみで、この研修会参加を早々に決め、その日が来るのを心待ちにしていました。日頃ビハーラ活動をしていない私には、先生のお話の内容は重く、その上まさかのこの原稿依頼にとまどいましたが、気を取り直して書かせていただきました。

まず、知っておいていただきたいのは、日本の医療界は医学知識・技術のみを取り入れたので、宗教性がないのは日本だけだそうです。

私たちは、誰もが健康で長生きしたいと日々暮らしていますが、老・病・死に直面した時に現実をどう受け止めるか…。

医療界では、病気を健康な状態に戻し、苦しさを少なくするよう手を尽くして下さいますが、いつかは、病気を健康な状態に戻せないときがやってきます。そうなった時、「私の思い」(健康で長生き)が「私の現実」(あるがままの私)を受容する世界(仏教的宇宙)が見えて、その差がなくなるのだそうです。仏教の「智慧」という世界。明日のためではなく今、今日が目的となるような受け取りが出来る道を教えて下さいます。(私もそこは未だです)

生きていることが当たり前ではない今を精一杯生きれば、『南無阿弥陀仏』で、生死は仏さまにおまかせし

ます。生かされている今を精一杯生きることが大切であることに気づくこと…を教えてくださいました。

12日は、有福の妙好人善太郎さんゆかりの光現寺様を訪ねました。善太郎さんは5歳で母親と死別、また4人の愛娘も次々と失いました。75年の生涯を田畑を耕して過し、その生活は、煩惱の泥田にまみれながらも、その只中から白蓮華という香しい智慧の華を見事に咲かせた念仏生活でありました。

おいなる みむねをうけて

うつしよ
現世の にごりえに咲く

しらはちす
かぐわしき 芬陀利華かも

ありがたい宗教に出遇えて

本当によかった。

『南無阿弥陀仏』



第10回 ビハーラ第4連区研修会に参加して

浜田組 金藏寺 香川 ケイ

講題「医療現場で求められる仏教」を受講して感じたことを述べたいと思います。一般的に伝統仏教は死の後のものと勘違いしている人がいるのではないのでしょうか。そのため医療現場と仏教はなかなか近づきにくいと感じております。死は自然であることは理解できても「生きていたい」と思う感情はなかなか消しがたいように思います。これが煩惱なのでしょう。

生きるとはどういうことなのか、老病死をどう受けとめて行くのか、元気な内に早くから自分のことをして、最後の病となった時あわてないで受けとめている自分になりたいと思います。如来思考で日常生活を仏教と共に生きることで、人間に生まれて良かった。人間として生きて良かったと「ナモアミダブツ」におまかせして生活すればそのことが老病死を自然に受けとめられる身になって行くのだと学ばせて頂きました。

先生がおっしゃっている『朝生まれて夜死ぬ』という気持ちで「今日の一日終りナモアミダブツ」と感謝して念仏をとくなえたく思います。何かの本に禅僧の方が毎日自分の葬式をなさると書いてあるのを思い出しました。如来さまにおまかせの気持ちが定着すれば「死はこわくない」と心も定まることでしょう。また「元気はあたりまえ」はあ

り得ないということも。

今でも忘れられない病室の場面があります。キリスト教信者の方の病床に牧師さんが時々来られお二人でお祈りをされていました。温かい情景でした。信者の方は本当に表情はおだやかで感謝の言葉はあっても愚痴を口にされることはありませんでした。その後静かにご逝去なさいました。自分の信ずる宗教のあることは心の安定につながり不安を緩和してゆくのでしょう。田畑先生のお話はビハーラの研修でお寺でと幾度か受講させて頂きました。元医療従事者として医療と仏教のつながりをとても知りたいと思っておりました。今では終末期医療の病棟で死を迎える方々に寄り添う看護がなされております。死を受け入れるには時間が必要です。心の揺れる中で本人が希望すれば仏教者を病室に迎えて下さる状況が整う病院を望んでいます。



2019(令和元)年度ビハーラ山陰 総会・研修会報告

とき 2019(令和元)年6月19日(水)

ところ 本願寺山陰教堂 教化センター 研修室

講師 奈倉 道隆先生(西本願寺医師の会会員・東海学園大学名誉教授)

参加者 32名



午前中の総会では、前年度事業報告・決算報告並びに監査報告、続いて今年度事業計画案・予算案をご審議いただきました。午後からは、奈倉道隆先生をご講師にお迎えし「ビハーラ活動と寄り添う傾聴～医療・介護福祉を踏まえた実践～」と題して、「如来のもとでつながるいのち(御同朋)」「如来に生かされて生きるいのち(報謝行)」をキーワードにご講話をいただきました。このたびの研修会にあたり、先生から「ビハー

ラ発足のころは、傾聴の実践も盛んでした。生老病死の苦に寄り添う実践として、重視されていました。高齢化が進むこれからの実践でも、大切にされるかと思えます。微力を尽くして研修させていただきます。」との温かいお言葉をいただき、丁寧な語り口で、傾聴の方法や医療・福祉と共にあるビハーラの実際について体験談を交えながらお話をさせていただきました。



活動紹介
出雲
ブロック

施設における看取りケアにかかわって

出雲南組 萬行寺 巖 紀恵子

多死社会を迎えようとしている我が国では、医療機関だけでは看取りの対応が困難になってきており、施設や在宅における看取り介護が重要視されるようになっていきます。

私が住む町の特別養護老人ホームでも、平成24年から看取りケアの本格的な取り組みが始まりました。

終末期の医療行為や終焉の場を決定するにあたり、家族の意向は確認出来ても、本人の意向を確認することがむずかしいというのが施設の課題でした。死をタブー視することなく、きちんと向き合うことのできる雰囲気作りが私の役割です。

当時の施設長さんがご門徒であったこと、春の彼岸に開催される年間に亡くなられた方の追悼式を勤めさせていただいていたこと、等々のご縁の中、月1回の活動はスムーズに始まりました。

活動内容は、苑内ホールに設置された仏壇の前で利用者の方や職員の方とお勤めをし、紙芝居をしたりご法話をするといったものです。

何回か回を重ねるうちに、利用者の方からの要望も

あって、お茶会が始まりました。介護する人とされる人という立場ではなく、住職と〇〇屋の〇〇さんといった関係の中で、地域の話をしたり、死に対する思いや不安を聞かせていただくことが出来るようになりました。

看取りケアは終末期から始まるものではなく、出会ったときから始まっています。日常のかかわりの中で「どう看取られ、どう生きたいか」を本人とともに考える施設の活動を少しばかりお手伝いさせていただいています。



ビハーラ山陰公開講座

ご案内(予定)

とき 2020(令和2)年3月

ところ 出雲市民会館

※ご講師は現在調整中です。

詳細が決まりましたらご案内させていただきますので、ご参加お待ちしております。



編集後記

ビハーラ山陰第6号をお届けいたします。

本号は、昨年10月に開催しました「第10回ビハーラ第4連区研修会」を特集記事として編集をしました。前回、山陰教区での開催から15年が経ち、事務局も幾人か交代する中、初めて迎えるビックな研修会で戸惑いもありましたが、おかげさまで150名を超えるご参加をいただき、内容も充実した研修会となり、ホッといたしました。研修会の総合テーマは、令和5年にお迎えする「親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要に向けたビハーラ中・長期計画」に掲げられています、「生・老・病・死を見つめ、ともに生きるビハーラ活動」とさせていただきました。今後は、このテーマに込められた願いを大切にしながら、皆様と共に活動を進めていきたいと思っております。

(事務局)